

呈請

謹一

者藤

著加

●神社仏閣禁煙サミット in 巢鴨

境内を禁煙エリアにするためには

露天商の協力が不可欠です。

加藤一晴 日本禁煙学会・監事

平成20年浜松
息神社の禁煙祭典にて

静岡県浜松市雄踏町の息神社では、昨年から境内禁煙で祭典を行なっています。1300年以上の歴史ある神社なのですが、社務所はなく、宮司さまも常駐していらつしやいません。祭典は地元の自治会が運営し、境内禁煙も自治会で決めたのです。「露天商には禁煙を要請していいのですか?」。首都圏から祭典を視察に来た方の質問にハツとしました。彼にすれば、「禁煙の祭礼」とは神社周辺を含めた、広い区域の禁煙、ならびに参加者や観光客だけでなく、露天商を含めた全員の禁煙のつもりだったのでしょうか。

たしかに、受動喫煙被害防止を目的とするならば、ご神域の境内のみならず、祭が行なわれている全域と現場にいる全員を禁煙に含めなければなりません。残念ながら、露天商の喫煙行為が目についたようでした。

そこで、喫煙行為が目立つた露天商達に、次回の祭礼から禁煙に協力してもらうことを検討しました。しかし、くわえタバコで商売をするのが彼らの日常のスタイルのようです。本当に、我々の禁煙の要請に耳を傾けてくれるだろうかと不安になりました。

どうすれば良いのか悩んだ末に思い浮かんだのは、東京巢鴨とげぬき地蔵尊・高岩寺でした。

とげぬき地蔵尊・高岩寺
来馬明規住職

「おばあちゃんのお原宿」と称せられる巢鴨一帯は、地域の喫煙対策を推進している全国的にも有名なエリアです。リーダーシップを発揮している高岩寺の来馬明規住職には二つの顔があります。ひとつは宗教家として、「生死とは何か」を追求する視点。もうひとつは内科医として「健康に生きること」を導く視点。何れの観点からも喫煙は否、なのです。住職は、約200名を数える高岩寺境内の露天商にも毅然として禁煙を求めています。巢鴨の露天商達に会って話を聞けば、なにか手掛かりが得られるかもしれないと思いまし



とげぬき地蔵通りから見る高岩寺。境内入り口にも、禁煙の協力を呼びかける大きな幟（のぼり）が掲げられている。

立ち並ぶ露店は、独特の雰囲気があります。露店は参道や境内の非日常性を演出し、お寺の風情に欠かせません。露天商が禁煙を守ってこそ、境内全面禁煙の意味がわかります。来馬住職の熱心な禁煙運動によって、露天商らの喫煙対策は徐々に

た。そこで、巢鴨の関係者の方々や、息神社の祭典主催者である雄踏自治会幹部と日程を調整し、巢鴨の禁煙状況を視察することになりました。

巢鴨地藏通り商店街に喫煙スペースが見あたらない

1598年（慶長元年）創建の高岩寺は、神田湯島から下谷屏風坂を

経て、明治24年に巢鴨に移転し、今では年間約800万人の参拝客を迎えています。『延命地藏菩薩の寺で命を縮める喫煙行為を禁ずる』。この理念の下、来馬住職が、まず40名の役僧や従業員に禁煙を支援し、露天商にも協力を要請しました。そして境内全域を禁煙化したのは、平成19年1月。歩いてみると巢鴨地藏通

進んでいきました。

ランチヨンセミナーで意見交換

今回の高岩寺視察団には、雄踏自治会から坂田会長、奥田副会長夫婦、藤本事務局の4名、雄踏町周辺からご縁のある方々が4名、計8名が参加しました。

視察に先立って開かれたランチヨンセミナー（食事を頂きながら講演を拝聴する）には、以前に息神社祭典の禁煙推進に関与してくださった方々、タバコ問題情報センター・日本禁煙学会評議員の渡辺文学さん、共同通信社の小川明記者、そして日本禁煙学会から村松・大谷両評議員の5名が自治会メンバーとの再会を楽しみに集まりました。

セミナー会場には、来馬住職と高岩寺境内の露天商3名が待機してくれました。来馬住職による高岩寺禁煙化の説明に続き、小生が息神社境内禁煙化の流れを、時系列で説明しました。

露天商代表の中野正氏は「露天商

は縦社会で、親方の言うことが絶対です。説得して理解してもらい、禁煙を徹底しています」とキツパリ発言しました。更に、来馬住職の提供による禁煙Tシャツを着ることで、露店商と高岩寺との一体感がかもし出され、ありがたかったと吐露。また、「禁煙は露天商の命と商売を守る」と来馬住職。お二人の話に、禁煙を通じた寺と露天商相互の信頼関係も大切、との印象をもちました。

活発な意見交換で時間はあっという間に経ちました。自治会長坂田氏も、他の自治会幹部も、高岩寺の禁煙推進活動の進め方に納得されました。

【禁煙】メッセージ満載の 高岩寺境内

高岩寺境内では、さらに6名の禁煙活動家の方々が集ってくださいました。来馬住職に案内され、ロビーで寛いだ後に、本堂で記念写真撮影。次に境内に出て長蛇の列ができている「洗い観音」を拝観しました。

境内地面には、アルミ箔の【禁煙】

シールが随所に見られました。喫煙者は下を向く習性があるためとのこと。建物の壁には、「禁煙…ご協力ありがとうございます・とげぬき地藏尊・高岩寺」のノボリが掲げられ、洗面所の入り口、便器、境内のベンチ、駐車場に至るまで、あらゆる箇所に【禁煙】の表示がありました。

これだけ徹底的に【禁煙】を表示しないと、年間800万人ものさまざまな参拝客全員に【禁煙】を伝えられないというところでしょうか。それでも、参拝者の中には、境内から一歩出てタバコを吸い、側溝に吸い殻を捨てる人もあるそうです。トイレで隠れてタバコを吸う観光バスの



8月23日、禁煙に取り組む、とげぬき地藏尊・高岩寺を視察に訪れる。坂田英夫会長（左）を始めとする視察団一行と、境内の各所に掲示された「禁煙」文字のプレート（右写真）。

ガイドさんもいるとのこと。ニコチン依存の呪縛の恐ろしさを、あらためて感じました。

しかし、視察団は境内全体から【禁煙】の無言のメッセージがはつきりと発信されることの必要性を理解しました。視察団は最後に地藏通り路上で記念写真を撮りました。

高岩寺の禁煙活動が曹洞宗全体に周知されるようになり、福井県の大本山永平寺も、今年から全山禁煙になったそうです。高岩寺の情報発信の力をまざまざと見せ付けられました。「お寺は寛容と厳格の両立の場。喫煙者の入山を拒むものではなく、全ての人に開かれています。けれども、お寺は道場ですから、何をやるでもいい場所ではない。道場にいる間はタバコはご遠慮ください」と来馬住職。

息神社に当てはめれば、「祭り参加は地域のエネルギーの集結する大切なイベント。威勢良く盛り上げて欲しいが、神社は神様のおわす場所であるから礼節をわきまえて欲しい」となるでしょう。

そもそも五穀豊穡を祈念する祭典が、なんでもありの無礼講で良いわけがありません。まして、日頃の憂さ晴らしを祭礼することなど言語道断です。息神社にお祀りされている志那都比古神への畏敬の念を忘れてはなりません。

「お地藏様のお力をお借りしています」と来馬住職。柔和な瞳の奥には、毅然とした意思が垣間見えしました。

とげぬき地藏尊の視察を終えて

今回の視察は実り多いものでした。露天商の方々が、喫煙しやすい環境にあるのは解ります。しかし、現代社会にあっても、タバコの害はまだまだ喫煙者に正しく伝えられていないのです。いつまでもくわえタバコでは、神仏のお膝元で働く露天商も早くに健康を害し、タバコの臭気で客も離れていくことでしょう。喫煙規制が厳しいことは、実は身体に優しいことなのです。

自治会の今後の課題として

(1) 露天商代表者に禁煙啓発とタ

バコの害に関する正確な情報を提供

(2) 露天商に禁煙協力を要請

(3) 禁煙Tシャツや法被などを作成し露天商に貸出

(4) 喫煙露天商にニコチン置換療法を勧奨

(5) 境内の禁煙表示のさらなる徹底

などが考えられました。

なるべく早く息神社の露天商たちにも喫煙対策に参加してもらい、協力支援体制をつくり、受動喫煙のない参拝環境を目指そう、と決意をあらたにしました。

終わりに

我々の視察を歓迎してくださった来馬住職、高岩寺関係者、露天商代表の中野氏、及び8月23日にお集まりいただいた日本禁煙学会評議員・中久木一乗さん、松原幹夫さん、塚田啓一さん、平賀典子さん、石木好子さん、寺嶋法子さんに深謝いたします。